

## 西山ため池物語

### ～今谷池（議定池）と放生池～

長岡京市の西方、丘陵を刻む谷にはため池が点在しています。これらの池はいつ、どのようにしてできたのでしょうか。今回は今里の今谷池（議定池、地図では儀杖池と表記）と放生池の歴史を紹介します。

展示期間：平成20年9月30日(火)～12月27日(土)

\*図書館休館日は除きます。

\*展示期間中、一部展示替えを行います。



### 今谷池と放生池の造成

今里村の西方の田地では、水はわずかの池水か、他村の余り水しかありませんでした。

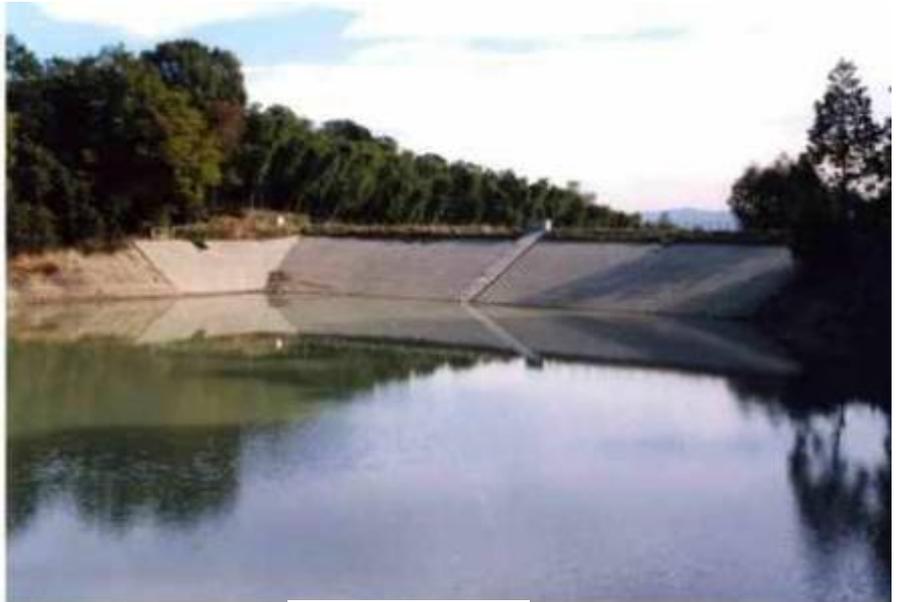
そこで、なんとか西の山手に池を築こうということになり、文化2（1805）年、念願のため池をつくることにしました。はじめは、今里・粟生・井ノ内の共同の池にする予定でしたが、池の替地を粟生・井ノ内に渡し、今里一村のため池としました（今里区有文書）。ため池が完成したのは、文政年間（1818～1830）のことです。

この今谷池の造成で、水不足は幾分改善されましたが、それでも用水は十分ではありませんでした。そこで光明寺の裏山にもう一つため池をつくることになりました。これが放生池です。嘉永2（1849）年、光明寺の承認を得て、ため池づくりが始まりました（今里区有文書）。





ふろそ谷のまぶ（間府）出口  
（『長岡の語り部』から）



現代の放生池



## ふろそ谷の流水とまぶ（間府）

放生池は、水を入れる川がないのが難点でした。今里村は、ふろそ谷の流水を放生池へ流し入れたいと粟生村に申し入れ、9月の節句から翌春八十八夜までの間のみ貰い受けることが承認されています（今里区有文書）。

ふろそ谷の奥には、今里の人たちが「まんぼ」（まぶ）とよんでいる通水用のトンネルがあります。水源は西の尾根の向こう側の谷水で、ここからトンネルで尾根の下を横断し、ふろそ谷へ導水しています。この工事に関するくわしい史料はありませんが、安政2（1855）年に着工されたとみられています（『今里土地改良区五十年のあゆみ』）。



## 今谷池を“議定池（ぎじょういけ）”と改名

慶応4（1868）年は長雨が降り続き、5月12日はことのほか強雨のため小畑川は大洪水で新堤が危険となり、また坂川や風呂川の堤が切れるという緊迫した状況となりました。このような中、雨はますます強くなり、ついに今谷池の堤が切れて、下流の光明寺役人ほか3人の家が流され、死者もでる大きな被害を出しました。

今里の村民が駆けつけようとしたところ、怒った粟生村の村民が棒や青竹をもって打ちかかり、さらに今里村の庄屋宅まで押しかける大騒ぎとなりました。

今里村ではひとまず檀那寺の住職と村医師の3人をたてて詫びをいれ、奥海印寺村と長法寺村庄屋の調停で、被害の補償と堤の再築の交渉をすすめました。

この年、12月には和談が整い、京都府へ報告。京都府からは、池の再築については両村でよく相談し、これにちなんで池の名を議定池とする裁許状が出されました。

明治2（1869）年8月には、二度とこのような災害が起こらないよう、池の管理について7項目を掲げて、議定書をと리카わしています（今里区有文書）。

\* 今谷池は「から池」とも古文書に記されています。現在の地図は、「儀杖池」となっていますが、歴史的には「議定池」（「儀淀池」「議淀池」）とするのが、本来の意味に即した表記といえます。